日経平均株価
２万８００３円０８銭
▼２７６円０１銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
１９３２．１９
▼７．４２（前日比）

株式市場新聞
www.marketpress.jp
2021
7/19
月曜日
発行元　株式会社 株式市場新聞社
〒530-0005
大阪市北区中之島４－２－２８甲南アセット中之島ビル
TEL 06-6105-1904

ＥＶ普及の鍵握る新技術

全個体電池と新冷媒で世界に先行

脱炭素へ向けて自動車業界がガソリン車から電気自動車（ＥＶ）や水素を利用した燃料電池車へのシフトを模索するなかで、世界の有力企業はＥＶへ経営資源を集中する動きを強めている。ＥＶの航続距離を伸ばすには電池の性能向上が必要不可欠だが、ここへ来ては、それ以外にもＥＶの性能を向上させる新たな技術が登場している。海外では自動車メーカー以外もＥＶ開発を進めるなかで、日本企業が勝ち抜くには様々な独自技術で性能向上を図る必要がある。

電池以外のキーパーツも

５割伸ばせる新冷媒

サービスエリアのＥＶチャージポイント

ホンダ（７２６７）が６月に入って水素を燃料とする燃料電池車（ＦＣＶ）「クラリティフューエルセル」の生産を年内で中止すると発表、これによりＦＣＶの量産メーカーは**トヨタ自動車**（７２０３）と韓国の現代自動車２社だけになり、世界の潮流はＥＶに集中する動きになっている。

水素は供給設備の整備に時間を要することからコンセントひとつで自宅などから充電できるＥＶの量産化を各自動車メーカーが短期的には急ぐことになりそうだ。そのＥＶについては一回充電あたりの航続距離を伸ばすことが大命題となっていたが、**ダイキン工業**（６３６７）がＥＶのエアコンに使う電力を大幅に減らし、ＥＶ航続距離を最大を開発したと報じられた。これまでは電池だけに性能向上への関心が集中していただけに電池以外の新たなキーパーツ登場にＥＶ普及への期待が一段と高まることになりそうだ。

一方、電池では高出力かつ短時間での充電が可能な全個体電池の実用化に期待が高まっている。開発では日本が先行し、**トヨタ自動車**（７２０３）は２１年中に試作車の公開も検討、電子部品メーカーでは**村田製作所**（６９８１）が高容量かつ小型サイズの全個体電池を開発している。独フォルクスワーゲンと米新興企業のクアンタムスケープは２４年にも全固体電池の商業生産を始めると公表しており、日本企業が技術を結集して先行できるか注目したい。

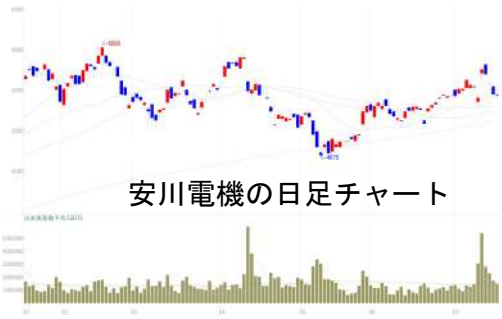
日経平均日足チャート

前週の動意銘柄

安川電機は急反発

受注想定上回り上方修正

週明け12日、安川電機（6506）が急反発。22年2月期の業績予想について、連結売上収益で4300億円から4600億円（前期比18・0%増）へ、営業利益で420億円から520億円（同98・7%増）へ上方修正した。主力事業であるモーションコントロール事業とロボット事業において想定以上の受注が続いている。


安川電機の日足チャート

レノバ続騰し最高値

日置電大幅高で新値

日置電機（6866）が大幅高で年初来高値を更新した。同社は9日の取引終了後、21年12月期の業績予想の修正を発表、連結売上高で266億円から281億円（前期比29・7%増）へ、営業利益で47億5000万円から54億2000万円（同2・2倍）へ上方修正、年間配当を110円から155円へ引き上げた。自動車業界向けを中心にバッテリーやモーター向けの計測器需要が高まっている。

13日、レノバ（9519）が続騰、最高値を更新した。21年6月の売電量が6894万4756kWh（既存施設前年同月比54・5%増）となったことを引き続き好感。日銀が金融政策決定会合で金融機関の気候変動対応投融資を促す新制度の骨格を決めると伝わったこともフォローになった。

アステナHD出尽し

アステナホールディングス（8095）は急反落。21年11月期第2四半期累計の連結営業利益は14億9500万円（前年同期比88・5%増）と利益が大幅に拡大したが、連結子会社の受託品産増加による収益拡大は事前に観測、材料出尽くし感から売られた。伸びた反動を織り込んで慎重に見積もっている。

インタアク失望売り

インターアクション（7725）が急反落。22年5月期の連結業績で、営業利益18億7100万円（前期比6・8%増）を見込んだが、コンセンサスのは20億円強を下回ったことから失望売りを浴びた。前期に検査用光源装置が大きく

タマホーム中計材料視

タマホーム（1419）が急伸。中期経営計画を策定したことが材料視された。新築住宅着工棟数No.1を目指し、4つの事業の柱を中心に、さらなる飛躍を図るとし、2026年5月期に連結売上高で3200億円（22年5月期予想2250億円）を目指す。

東宝営業益3・8倍

14日、東宝（9602）が急反発、最高値を更新した。22年2月期の第1四半期決算を発表、連結営業収入で前年同期比75・1%増の578億8000万円、営業利益で3・8倍の105億1800万円と大幅増収で利益が急拡大したことが好感された。東宝のアニメーションレーベル「TOHO animation」作品が業績に寄与した。

正直じいさんの株で大判小判

好業績出遅れ株に買い

前週の東京市場は前半は戻りを試しましたが、25日線に跳ね返されるかたちで下げに転じ、週末には再び下値を探る展開になりました。新型コロナ感染拡大が止まず、経済正常化期待後退による持ち高調整の売りが上値を抑えています。ただ、週末はファーストリテやエーザイな株が指数を一時400ど225採用の値がさ株が指数を押し下げ、日経平均は円を超える下落となりましたが、は値上がり東証1部の騰落銘柄数は1008、値下がり1058と拮抗しており、大型株が軟調に推移する一方、中小型株の個別物色は活発でした。

推奨銘柄もお制解除のシキノ出直り基調を強ムセル研（7096）は上値追いました。動きのいい小型株の噴き値を狙う一方、決算発表をにらみ好業績出遅れ株の買い場を探る考えです。花咲 翁

ERIHDストップ高

建築確認検査で営業益倍増

ＥＲＩＨＤの日足チャート

ＥＲＩホールディングス（６０８３）ストップ高。２１年５月期の連結決算は営業利益４億２００万円（前の期比２２・２％減）と減益ながら６月１５日に上方修正した水準で着地、２２年５月期は７億８９００万円（前期比９５・９％増）と利益倍増を見込んだ。４月の省エネ適合義務の対象拡大により建築確認検査への引き合いが強まると見ており、年間配当も前期の１５円から３０円へ大幅に引き上げた。

Gunosy2Q赤字

Ｇｕｎｏｓｙ（６０４７）が急落、一時ストップ安まで売られた。２２年５月期の業績予想を発、第２四半期累計連結営業損益で３億２４００万円の赤字を見込んだ。投下予定の広告宣伝費、１ＤＬ当たりの獲得費用（広告宣伝費÷新規ＤＬ数）の過去実績と今後獲得効率が低下する可能性などを勘案して算出している。

IDOM今期上方修正

１５日、ＩＤＯＭ（７５９９）が大幅に６日続伸、東証１部上昇率トップに立った。２２年２月期第１四半期の連結決算は売上高１１７０億１３００万円（前年同期比３９・８％増）と大幅増収で営業損益５０億８４００万円の黒字（前年同期１億５３００万円の赤字）に浮上、通期予想を売上高で３９００億円から４０５４億円（前期比６・５％増）、営業利益で１２５億円から１５０億円（同４１・９％増）へ上方修正した。国内大型店中心に小売台数が伸びている。

ラクス利益確定売り

ラクス（３９２３）が急落。１４日引け後に発表した６月度の売上高は前年同月比３３・６％増の１５億９５００万円と引き続き大幅な増収となったが、当面の利益を確定する売りが優勢になった。株価は買い戻しを交えて大きく上昇しており、１３日に実質上場来高値３５００円をつけていた。

株式市場新聞 marketpressはＭＵＲＡＭＯブランドで商品を開発する株式会社たけむらとクラウドファンディングに挑戦します。

AI技術で作られたハイテクメガネ

あなたは１日に何時間スマホを見てますか？目の筋肉は鍛えないと衰えていきます。「アイトレーナー」はそんな弱った目の筋肉を鍛えるAI技術で作られたハイテクメガネです。柔らかくジャストフィットに調整できる鼻パッド、シャッタースピードは４段階、まずは一番早い２０ＨＺから。１日５分程度目をぐるぐる動かしながら毎日トレーニングしてください。

※クラウドファンディング前に先行販売、ご興味がある方はお問い合わせページから

関通ストップ高で新値

EC・通販物流好調で増額

15日、**関通**（9326）がストップ高で新値。22年2月期の第2四半期累計の業績予想について、連結売上高で49億1000万円から52億8200万円（前年同期比21・3％増）へ、営業利益で1億8600万円から3億1900万円（同2・5倍）へ大幅に上方修正した。物流ではEC・通販物流支援サービスの新規導入が早期に進み、売上高を前倒しで計上している。

ジェイリース最高値

週末16日、**ジェイリース**（7187）が続急伸、最高値を更新した。22年3月期の業績予想について、連結売上高で85億円から87億5000万円（前期比15・1％増）へ、営業利益で12億円から14億5000万円（同53・8％増）へ上方修正。オフィス、テナントなどの事業用賃料保証が収益貢献する。

企業レター

幅広い物流ニーズに対応

大和ハウス工業

埼玉に大型マルチテナント施設

大和ハウス工業（1925）は15日、埼玉県南埼玉郡宮代町でマルチテナント型物流施設「DPL久喜宮代」を着工した。東北自動車道と圏央道のインターチェンジから5km以内に位置、東京都心部まで約50kmと首都圏全域の物流をカバーでき、東北や信越方面へのアクセスもしやすい好立地にさいたまスーパーアリーナ約3・7個分にあたる大型施設（建築面積4万3730㎡、延床面積16万7743㎡、1955㎡の規模で、約57002㎡の区画から最大24テナントが入居が可能。天候の影響を受けず荷物の積み下ろしができる「中車路」を設けるとともに、らせん状ランプウェイ採用して40フィートコンテナ車が各階へ直接乗り入れできるようにするほか、トラック入場予約システムを導入することで作業効率を最大限に高める。

さらに、免震システム導入に加え、浸水対策も講じ災害発生時の早期復旧を実現。従業員専用の保育施設やカフェ、無人コンビニを設置してテナント企業従業員が働きやすい環境も整備する。

転ばぬ先のテクニカル

強い銘柄につく

このところ東京市場一人負けとなっています。日経平均もTOPIXも3週連続の陰線となりました。ただし位置が違います。日経平均の週足は上から26週、13週、5週の並びとなっており、且つ全ての移動平均線を割り込んでいますので下落トレンドが明確です。一方、TOPIXは5週線は割り込んでいますが、上から5週、13週、26週線の並びであり上昇トレンドを維持しています。

一番強いのは東証二部株で先週の週足は陽線で2018年高値を抜いています。次に日経Jasdaqが強く、週足陽線形成で高値更新が視野に入っています。マザーズは2週続落で下降トレンド入り間近。このように見ていくと信用買い残の積み上がっている大型株よりも、需給のよい中型株、小型株優位の相場であり、右肩上がりのトレンドを形成している強い銘柄を選択するのがベストでしょう。　**日々勇太朗**

前週の動意銘柄

エーザイ使用見送り

エーザイ（4523）が大幅続落。米バイオジェンと共同開発したアルツハイマー型認知症治療薬アデュカヌマブについて、米国の大手病院が相次いで使用を見送る方針を示したと伝わったことで、早期実用化と収益貢献への期待が後退、米市場ではバイオジェンが大幅安に売られている。

公開価格7％上回る

ラキール（4074）が東証マザーズに新規上場、公開価格1400円を7・1％上回る2480円で初値をつけた。企業向けシステムの開発・保守、クラウド型アプリケーション開発・運用基盤とその関連製品開発・販売などを行う。

チャートから読む 騰落銘柄

日本鋳造（5609）

２５日線を下値支持ラインにジワリと上値を追い、１６日には６月１８日高値９１３円を抜ける。４月２６日高値９６６円突破から２月２４日の年初来高値９８３円超えに期待。素形材は半導体装置向け好調。

シキノハイテック（6614）

６月２４日に付けた最高値５２４０円から３５００円割れまで下落、約３週間の調整を経て動き煮詰まる。信用規制解除で売買活性化、半導体周辺のハイテクベンチャーで成長期待は強く再び青空相場へ。

久光製薬（4530）

３月３０日７７５０円高値から一貫した下落基調で７月９日５０６０円安値付けた後も戻り鈍い。５０００円割れると昨年７月３１日安値４６０５円までフシない。ＯＴＣ医薬品苦戦をネガティブ視する向きも。

ワークマン（7564）

６月度月次売上高の大幅減少で成長鈍化懸念が再燃。マド空け急落のあとも下げ止まらず、日足は再び陰転、月足も陰転が近い。押し目買いに積み上がった信用買い残が重荷で、底割れ回避へ正念場。

※チャートは日足

21年秋の新商品8月20日発売

New product

期待の新商品を多彩に投入

5種の雑穀と3種の海藻スープなど

大森屋（２９１７）は「５種の雑穀と３種の海藻スープ」、「バリバリ職人焼きいも風味」、大豆ミートを使用したどんぶりの素！「まめに、たんぱく」シリーズ２品、「減塩味付卓上１００」、プラごみ削減に貢献する「味付のり詰め替え用９０枚」を８月２０日から発売、夏の暑い時期にぴったりなスープ「しじみわかめスープ辛味」を７月１日から９月３０日まで全国で期間限定発売している。

大森屋
（２９１７）

〈５種の雑穀と３種の海藻スープ〉　５種の雑穀（もち麦・押麦・発芽玄米・あわ・きび）と３種類の海藻（バラ干し海苔・わかめ・とろろ昆布）の具材入りで食物繊維がたっぷり入ったスープ（１．６ｇ／１食）。１食２３キロカロリーなのに、具だくさんで食べ応えがあり、１日に必要な量の１／２の鉄分が摂れる。（栄養機能食品）。かつお・昆布・あご等の和風だしをベースに、香ばしい雑穀と海藻の旨みが溶け込んだ優しい味に仕上げている。

５種の雑穀と３種の海藻スープ

〈バリバリ職人焼きいも風味〉　大人気商品「バリバリ職人」のシリーズ第４弾。今回は焼きいもの風味を忠実に再現、「甘いぜ！！」のキャッチコピーで、お菓子の世界観を表現している。

まめにたんぱく炭火焼風てりたま丼の素

〈まめに、たんぱくシリーズ〉　大豆ミートを使用したどんぶりの素２品「まめに、たんぱく。炭火焼風甘辛てりたま丼の素」と「まめに、たんぱく。ガーリックスタミナ丼の素」を用意。昨今ＳＤＧｓ関連商品（環境問題・食糧問題・エシカル消費対応）が増えており、こういった市場環境を踏まえ、地球環境に優しい商品（省資源設計・バイオマスインク使用）として、大豆ミート使用商品を開発。大豆から作ったお肉のような具材（大豆ミート）が入った、レトルトパウチのどんぶりの素。

減塩味付卓上１００

〈減塩味付卓上１００〉　同社味付のり標準調味液比で塩分を３０％カット、かつおと昆布によるだしの旨みを効かせ、美味しさがアップし、健康志向にさらに応える化学調味料不使用としている。

〈味付のり詰め替え用９０枚〉　北海道産真昆布だしの旨みとコクが生きた風味で、唐辛子をアクセントにした、飽きのこない味わいで卓上容器よりも約９０％プラごみを削減している。

しじみわかめスープ辛味

〈しじみわかめスープ辛味〉　しじみわかめスープの美味しさはそのままに、唐辛子や生姜、胡椒を配合し、みそやごまのコクをプラスした辛味タイプです。キレのある辛さとコクが食欲をそそる、夏にぴったりなスープ。

潮流

日本の遅れた対応に疑問

五輪無観客は政府の決意欠如!!

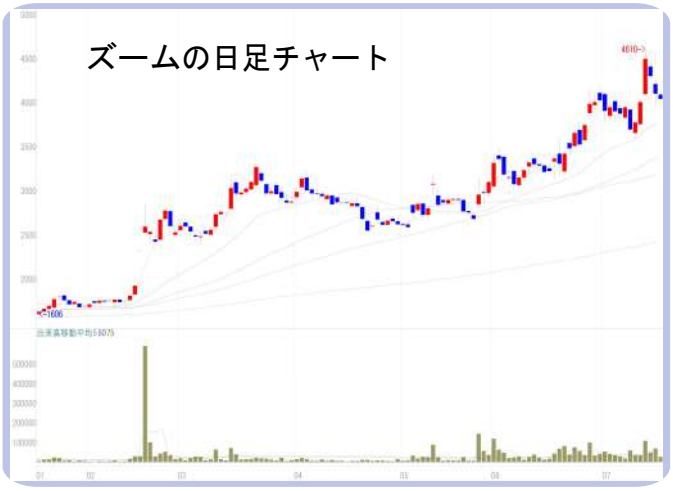
７月９日、東京五輪が無観客での開催に決まった。９００億円とされるチケット収入減など経済効果は約１５００億円減少する見込みだ。加えて、４回目の緊急事態宣言を決めた。経済損失は約１兆２６０億円に上る。一方、無観客でも五輪を開催する効果として、世界的な広告宣伝効果の大きさはある。しかし、本来コロナ感染によるパンデミックがなく、東京オリンピック・パラリンピックが開催されていたなら、経済波及効果（生産誘発額）は全国規模で約３２兆円と試算されていた。

東京五輪をどれだけ多くの人々が待ち望んでいただろう。飲食店、ホテル、旅行・観光業者などの失望感は計り知れない。また、国内・海外の人々も観戦できることを非常に楽しみにしていた。東京五輪に参加する世界中の選手も五輪のためにどれだけきつい練習をしてきたことか。練習の成果を多くの人の前で見てもらい、歓声を浴びたかったに違いない。

観客がいるのといないのとでは選手の喜びや感じ方は全く違う。五輪は普段目にしないような競技や世界ランキング上位外の国々の選手が参加できる特別な舞台だ。人生最大の目標をオリンピックに定めて練習を積んだ選手もいるはずだ。コロナ禍の状況では無観客でも仕方ないと思う人も多い。ただ、東京五輪が１年延期になった段階で１年後には必ず観客を入れて開催するという強い決意が政府にあったなら、無観客開催にはならなかったのではないか。

何故なら東京五輪は観客をいれて開催するという前提で対応策を打ち出すからだ。ワクチン接種が海外で拡大した時に政府が東京五輪開催を行う強い意志を世界に示していれば、ワクチン確保とスピーディーなワクチン接種が出来ていたと思う。日本は経済波及効果約３２兆円を逃すだけでなく、実行力の無さを露呈した。日本の遅れた対応に疑問を感じる。政府は世界にコロナ禍に打ち勝った姿を示すことができなかった。それどころか酒の提供を続ける飲食店に対して金融機関への働きかけを要請した西村経済再生担当大臣や政府に対して、不信感が一気に拡大し、菅内閣の支持率は３３％まで低下した。３０％割れは危険水域といわれ、株式市場は政局不安が拡大する。

潮流銘柄は**ズーム**（６６９４）、**アクリート**（４３９５）、**レノバ**（９５１９）。



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール

１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」にて約１万人の参加者の中から優勝。直近では２０１７年１月に始まった夕刊フジ主催の「株・１グランプリ」において優勝。１カ月間における３銘柄の合計パフォーマンスでは１５５％と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

支持率30％割れは危険水域

痛み伴っても変化を

連休前ポジション調整に注意

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール

証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の日経平均は前週末比約６２円高となったが、月曜日に大幅上昇で始まったため、週足では３週連続で陰線となった。新型コロナウイルスの第５波の拡大が収まらず、第４度目の緊急事態宣言発出も人流は増加する一方でワクチン接種拡大が唯一の対策となってきたが、そのワクチンも供給の遅れで一向に進まない。そんな中、国民の感情を無視するようにオリンピックが今週から始まるが、海外からくる選手や関係者は厳格な行動制限が付いて回り、本来の日本の良さである「おもてなし」精神を感じることもないだろう。

１０月の総選挙では痛みを伴っても大きな変化を

こんな状況下で開催するオリンピックは経済効果が少ない上にそれ以上のデメリットのほうが多いと感じているので、海外投資家は日本株を「見送り」としているようだ。米国市場や上海市場、ドイツ市場が上昇する中、日本市場は下落を続けている。以前であれば新規感染者数の増加が対策期待に繋がり株価を上昇させていたが、今や感染者が増えるごとに相場は下落する状態となっている。

海外投資家も今の日本では経済の急回復のシナリオが描けないのに加えて、菅内閣支持率の低下による政治不安さえ感じ始めているようだ。７月４日の東京都議選での自民党苦戦から株価が低迷しているのは政局への不安が要因ともいわれている。デジタル化が急激に進化、発展していく世の中でそれをうまく活用できない６０代、７０代の人が国の中心にいるのは国にとってはマイナスである。１０月の総選挙では痛みを伴っても大きな変化を求めたい。

NYダウの日足チャート

今週は３日間の立ち合いとなるため、先物に振り回される相場となろう。日経平均の手口ではクレディスイスの売り建て玉が目立っており戻り相場では踏み上げも期待できるが、下げ局面では売り乗せも十分考えられるので注意したい。

チャート的には一目均衡表の転換線（２万８１３５円処）を下回っており、売り圧力が強そうである。７月に入って窓を空けて上下することが多いが、その窓もすぐに埋める傾向にあり窓埋めの２万８２４０円２１銭は意識されそうである。その上は節目の２万８５００円が抵抗ラインとなってこよう。さらに、２５日移動平均線（２万８７０３円処）では戻り売りが出てきそうである。

日経225先物日足チャート

一方、下値も２万８０００円を割れてくると年金らしい買いが入っており、下支えとなっているようである。だが、再び２万７８００円を割ってくると２万７４００円処まで下げる可能性もあろう。

今週は２万７４００円から２万８５００円のレンジを想定する。連休前のポジション調整には注意したい。

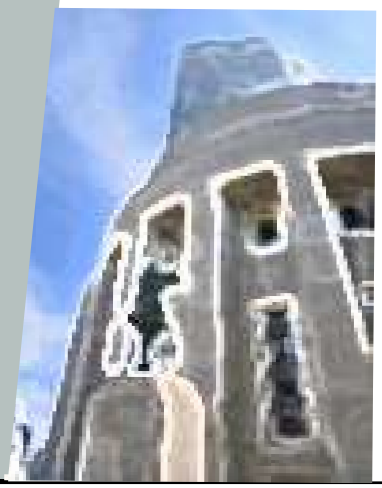
（ハチロク）

星野三太郎の 株街往来

～虚しい東京五輪～

いよいよ２３日から東京五輪が始まる。開催の是非については物議を醸しているが、ワクチン接種率が高いイスラエルでさえ、感染者が再度拡大しているのだから、結局のところ開催を強硬しても後悔しか残らないのではと思った。競技が始まり日本人選手がでれば応援するだろうが、世界のベストメンバーが揃わないなかではメダルを獲得しても素直に喜べないとも思うのは筆者だけだろうか？

コロナ感染前のラグビーワールドカップ２０１９には神戸へ取材に行かせてもらったが、海外から応援にきたサポーターと交流できたことが今でも思い出に残っている。今回は無観客でないとしても海外からの応援客が無理な状況下では、日本人と海外客との交流がないのも虚しさがのこる。１９４０年の東京五輪は日本が開催を返上したが、戦後に開催が実現した。第二次世界大戦当時と今を比較できないが、開催を返上して、コロナ収束後に再度立候補してもよかったのではと思う。色々思うところはあるが、開催するからには無事に終了することを願うのみだ。



New product

ニチレイ　家庭・業務用計47品発売

21年秋季新商品・リニューアル商品

牛すき焼きめし

ニチレイ（２８７１）傘下のニチレイフーズは、２１年秋季新商品・リニューアル商品を、家庭用・業務用商品合計で４７品発売する。

主食では手作りでは難しい料理性と季節感で米飯市場を活性化すべく「牛すき焼めし」と好評の「まぁるいシリーズ」にたっぷり具材とおこげにこだわったメニューを拡充し、「まぁるい釜めし鶏五目」を新たに発売。おかずでは「今日は家飲み」シリーズとして「ガーリックシュリンプ」、「根菜入り鶏つくね」、「梅しそささみ焼き」、「スパイシーなんこつ唐揚げ」を、お弁当ではピッツァ・マルゲリータの美味しさをお弁当向けにアレンジしたお弁当にＧｏｏｄ！「モッツァレラチーズとトマトの包み揚げ」や満足の食感と食べ応えにこだわった「ソースハムカツ」などを発売する。

Ｊ-オイルミルズ　健康サララをリニューアル

特保の特長わかりやすく視認性も

AJINOMOTO健康サララ

Ｊ－オイルミルズ（２６１３）はＪＯＹＬ「ＡＪＩＮＯＭＯＴＯ　健康サララ」（特定保健用食品）をより特長がわかりやすく視認性を強化したパッケージデザインに一新し、８月下旬より全国で順次発売する。

「ＡＪＩＮＯＭＯＴＯ　健康サララ」は総コレステロールや、ＬＤＬコレステロールを下げる油。大豆胚芽たっぷりの原料を使用し、揚げものや炒めものをはじめ、どんなお料理にも使うことができる。今回のリニューアルでは、ユーザーに「ＬＤＬコレステロールを下げる」という商品の特長がよりわかりやすく伝わるようにパッケージデザインを見直した。

記者の視点

相場見通し

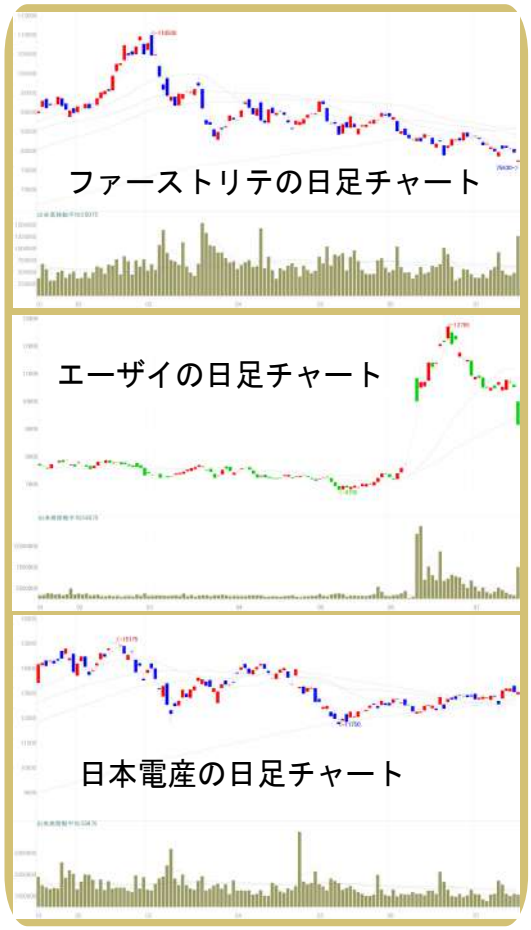
4連休控え様子見継続

日本電産の1Q決算に注目

7月第3週は週初こそ日経平均で2万8800円台まで戻す場面があったが、その後は週末に2万8000円割れとなり、軟調な動きとなった。

ニューヨーク市場はナスダック、S&Pとも最高益更新後の利益確定売りの範囲内だが、東京市場についてはデルタ株感染拡大による東京都の4度目の緊急事態宣言が重石になった。新規感染者については、ワクチン接種が受けれていない50歳以下に集中しており、予想の下方修正、エーザイは米バイオジェンと共同開発したアルツハイマー型認知症治療薬アデュカヌマブについて、米国の大手病院が相次いで使用を見送る方針を示したと報じたことが嫌気された。これら指数の下げを主導した銘柄の下げ止まりも指数の落ち着きを探るうえで重要な鍵を握ろう。

今週は22日から4連休となるため3日間しか立会いがなく、積極的な売買は期待できない。21日には**日本電産**（6594）の第1四半期の決算発表が予定されており、その内容が注目される。



個別では**ソフトバンクグループ**（9984）に加えて、**ファーストリテイリング**（9983）や**エーザイ**（4523）の急落が指数の下落を加速させている。ファーストリテは通期の不確実な時代を生き抜くには、自分なら乗り切れるという信じる心、自身の判断をもとに失敗を恐れず挑戦するぶれない心が必要という。そして何より重要なのは仮説と検証を繰り返し、絶えず間違いを修正していく粘り強さらしい。

この心得は確実がない株式投資にそのまま当てはまる。少々正確さを欠いても大きな変化をとらえ対応していくことが重要だと思う。

編集後記

コロナ禍で世の中は大きく変わった。ただ、終息してもそのまま元に戻ることはない。また違うかたちに変わっていくのだろう。この

今週のスケジュール

- 16日　米6月小売売上高(21:30)
- 19日　6月首都圏新規ﾏﾝｼｮﾝ発売(13:00)
- 20日　6月消費者物価(8:30)
- 21日　6月貿易統計(8:50)
  6月17･18日開催の日銀金融政策決定会合議事要旨
  米20年年国債入札
- 22日　ECB定例理事会(ラガルド総裁会見)
  米6月中古住宅販売件数(23:30)
- 23日　東京オリンピック開催(～8/8)

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。